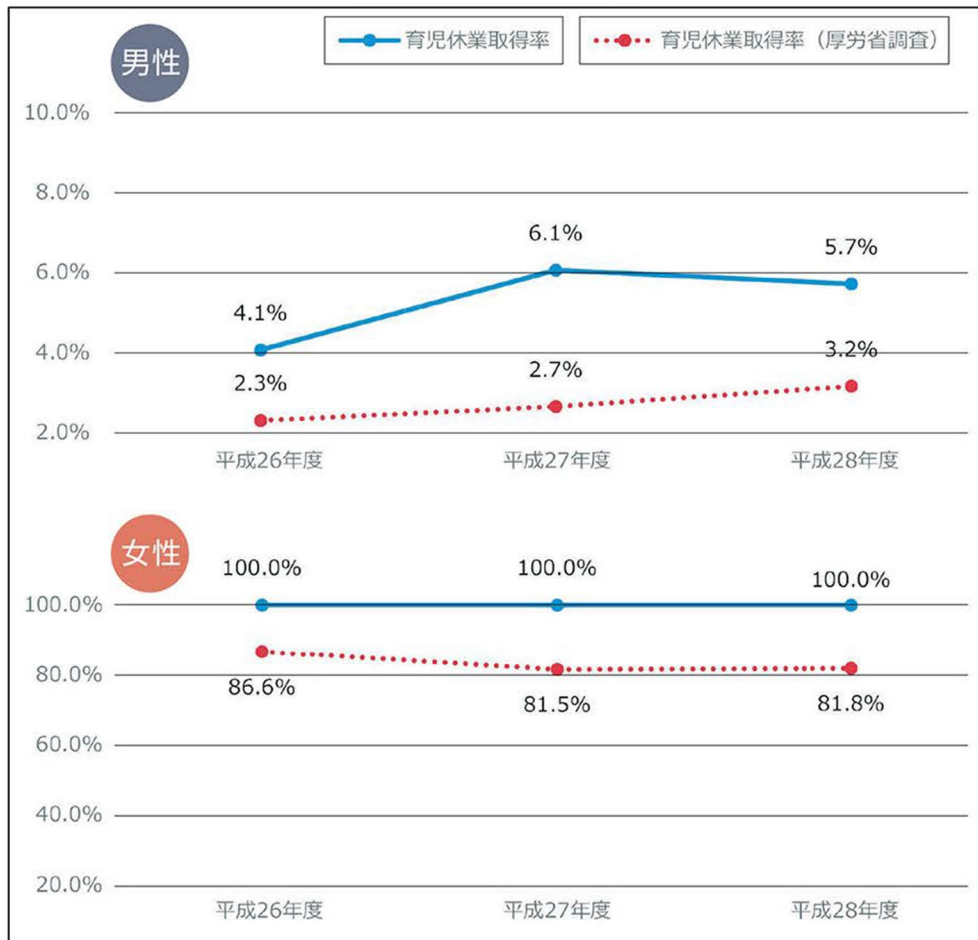


表4 育児休業取得率



## 育休後の復職は82%

教育やサポート体制を整備する「くるみんマーク」「プラチナくるみん認定」の取得企業が9社あり、前回調査より1社増えた。ほかに「えるぼしマーク」の認定取得企業、社長が「イクボス宣言」をした企業

が各1社あった。育児休業取得率は、男女とも

に厚労省調査より高かった(表4)。一方で育児休業後の復職率は、男性は100%復帰しているが、女性は81.8%にとどまり、企業としてまだ努力の余地があることがわかった。

## 第14回 人材育成フォーラム

### 「働き方改革」で盛り上がる

#### 2講演聴き、グループ討論会

人材育成委員会が主管する「第14回人材育成フォーラム」が11月22日、日本橋三洋グループビル会議室で開かれ、ホール、メーカーなどの会員企業14社から人材担当社員19人が参加した。今回は「働き方改革」をテーマに、「評価制度の共有」をサブテーマに掲げ、2つの講演とグループディスカッションが行われた。



前田委員長

冒頭、前田竜哉委員長がフォーラムの趣旨について、「皆さんは総務部、人事部、人材開発部、教育担当などいろいろな業務を担当されていますが、そうした『人』に関する部門の方たちの情報共有の場として、当初フォーラムはスタートし、中断がありました。14回を数えます。意見交換や企業講演を通じて自社の問題解決のヒントを見つけてもらうとともに、人材部門の人脈づくりの場としても活用してもらえたらと思っています」と述べた。

1つ目の講演は総合人材サービ

スの(株)ネオキャリア経営企画部、鈴木彩加氏による「人材定着率アップに向けた人事データの活用方法(JINJERの活用)」。

鈴木氏は「金融、広告、教育、医療、農業など、様々な分野でテクノロジーとの融合が広がっています。同様に『人事』領域をIT化することで、最適な人事業務の実施と業務の効率化を図るのがJINJERです」と、次世代型人事戦略を紹介した。

採用管理、教育研修、人事管理、勤怠管理、労務管理、福利厚生、給与管理などのデータをJINJERと管理プラットフォームへ集約させることで、同氏は「業務のIT化で、いろいろな面の可視化、負担軽減、従業員とのコミュニケーション強

化、採用と育成の強化などに  
つなげることができま

「サイボウズ式働き方改革  
革の実現と評価との連動」。

和田氏は、人は多様で誰一人同  
じ価値観を持つ人はいないから、  
「100人いたら100通りの人事  
制度があつてよい」との同社の考  
え方を紹介し、「働き方の選択」「働  
く場所と時間の選択」「最長6年の  
育児休暇」「副業の自由化」など、  
ワークライフバランスに配慮して  
取り入れた20の人事制度を挙げた。

さらに同社の経営理念、①チー  
ムワークあふれる「社会」をつくる  
②チームワークあふれる「会社」を  
つくる——を紹介し、「多様な個  
性の組み合わせとコミュニケーション  
の活性化が社内のチームワー  
クをつくり、イノベーションを生ん  
でいる。離職率は28%から4%に  
激減し、売り上げは堅調に推移し  
ている」と、働き方改革の効果を  
強調した。最後に新しいクラウド



和田武訓氏

鈴木彩加氏



グループに分かれて講演を聴く参加者たち

サービス「KINTONE」を紹介した。  
それぞれの講演の後、参加者た  
ちは4グループに分かれてディス  
カッションにのぞみ、自社の状況  
をもとに情報共有や意見交換を行  
い、フォーラムを通じて感じたこ

と、気づいたことを踏まえ、自社  
の課題、できること、必要なこと  
などをグループ内で共有した。最  
後に場所を変えて懇親会を開いた。

□出席者

(順不同、敬称略、(株略))

米澤賢、常松信雄(以上アプリイ)、  
守屋知高、佐々木健太郎(以上日拓  
ホーム)、田島里美、齋藤倫子(以上  
ニラク)、安田哲也(ピーアークホー  
ルディングス)、岩堀友洋(名豊観  
光)、大塚瑞樹、寺山真史(以上NE  
XUS)、伊勢亀雅幸(ジョイパック  
レジャー)、青島範明(ABC)、長  
田勝(北電子)、堀江守、佐々木淳一  
(以上マルハン)、黒澤仁視(メッ  
セ)、知花邦久(オータ)、赤羽良太  
(ジャパンニューアルファ)、井上征  
大(ディーナネットワーク)

## 人材育成委員会

11月22日  
日本橋三洋グループビル  
出席委員等8人

## 企画作りの最終確認

### 女性活躍推進フォーラム

委員会の後に引き続き開催さ  
れる「第14回人材育成フォーラム」  
の進行、受け持ち分担等について  
最終確認を行った。

12月以降に予定される2つの女  
性活躍推進フォーラム「第3回 in  
九州」(12月14日)、「第4回 in 東京」  
(来年1月26日)について、それぞ  
れが最終回を迎えるため、各グル  
ープの企画づくりの進捗状況を確  
認した。